

第17回 ハイキング



長男と次男のやんちゃぶりは枚挙のいとまがありません。小さいころは、朝目覚めると、タンスの引き出しを階段状に引き出しては、上までよじ登って、えいやっ、えいやっと交代で何度も飛び降りるのを毎日の日課としていました。日曜日もです。勿論、家の障子は破れ放題。それだけではあき足らず、障子の棧も見事に破壊し尽くしました。ふすまも同じ運命に曝され、自分たちであけた大きな穴から、自慢げに、押し入れに出入りをしていました。

おとなしいなと思ったら、一階のひさしの端で仲良く肩を組んで座り、下界を睥睨していました。どうも、二階の窓から一階の屋根の上に降りてひさしの端まで歩いたようです。

彼らを回収するために、慣れない猫なで声を使い、日ごろお目にかかれないとびきりのおやつを提供したのを覚えています。

保育園では、園庭で思う存分クタクタになるまで体を動かすためか、夕食後は、往々にして夕食中でも、即就寝でした。

保育園に行かない休日が大変です。

こんなエネルギーの塊を室内に閉じ込めて何事もなく一日を終えることができるとは到底思えません。ということで、体を動かしてエネルギーを発散させ、さっさと寝かしつけるのが一番と考え、ハイキング、それも平地ではなく低い山によく連れて行きました。今回は、ハイキングでの出来事をいくつか。



ハイキングと決まれば、まずは弁当作り。

子供が目覚める前に、さっさと弁当を作ってお出かけです。

コンビニができてからは、近くのコンビニでまずは弁当の調達。勿論、夫も一緒です。

さあ電車で移動です。鉄道オタクの兄弟ですので、電車の中では比較的静かに運転手さんの運転操作を眺めたり、車掌さんのアナウンスをまねたりしていました。

現地に着くと、糸の切れた凧状態になります。ふたりで競争宜しく、

ハイキングコースの上り坂を我先にとジグザグ走りをはじめます。犬の散歩ですね。

当然、すぐに疲れて止まります。そんな時は、「するめ」を目の前にひらひらさせて、

「するめ食い競争」宜しく、歩き続けさせました。



六甲山のハイキングではこんなことがありました。

長男が全員の弁当をプラスチックバッグに入れて肩に担いで歩いていました。周りには、何組かのハイキング客がいました。と、突然、小型の猪が走ってきて、彼の背中に飛び掛かり、荷物を口にくわえて、一目散に逃げ去りました。一瞬の出来事で何が起きたのか理解できないほどの早業でした。

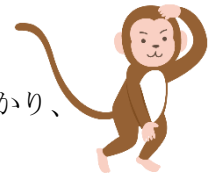
長男はびっくりして泣き出すのではないかと思ったのですが、（復讐を誓ったのか）蹴りのけいこをしていました。懲りん奴っちゃ。



愛知県の明治村か犬山城かで、捕まえた蝉を虫かごにイッパイ入れて、放し飼いのサル山に向かっていた時のことです。今度は、サルが数匹、虫かごを狙って、遠くから跳びかかってこようとしてきました。それを見た、監視員さん。

「虫かごを捨てろっ！」と大声で叫びました。子供たちはすぐに虫かごを放り出し、すんでのところ襲撃されずにすみませんでした。サルたちは放り出された虫かごに飛び掛かり、産地直送のセミを取り出してはむしゃむしゃと食べ始めました。

これには、さすがのやんちゃ坊主たちも度肝を抜かれたのか、呆然とした顔で静かになりました。それも束の間。すぐに、別の遊び場に向かって走っていくのでした。



私が切迫流・早産で入院していたとある日曜日。

半ズボンもTシャツもボロボロで、手足は泥だらけ・擦り傷だらけの子供たちが夫と共に、ぬーっつと現れました。

聞くと、ハイキングで絶壁を命がけで登ったんやけど、帰り道が分からなくなって、藪漕ぎをしたとのことでした。

道なき道を歩いて、心細かったと夫を含む全員が泣き顔で訴えるのでした。

周りの入院患者さんとお見舞の方たちの忍び笑いが広がりました。

そんなこんなのハイキングで、両親がフラフラになるのを尻目に、子供たちは頑丈に育ちましたとき。

わが家のルールブック：

我が家の最年長と最年少の子供の年齢差は10歳。全員

で遊ぶためによくやったのがジグソーパズル、

「桃鉄（ゲームの「桃太郎鉄道」）」、そして、カルタでした。

お気に入りには石川啄木の「啄木カルタ」でした。

読み札には短歌が、取り札には最初の文字と

情景の絵がありました。

例えば、「猫を飼はば、その猫がまた争いの種となるらむ、



かなしき我が家」。この取り札には「ね」の字と、クロネコとそれを呼び寄せる少女の絵が描かれています。

このおかげで、最初の「ね」の音を聞けば、2歳の末娘でも猫の絵札を取ることができました。

「馬！馬！馬に乗りたし、種吉と昔かけくらをせしこともあり」も、末娘のお気に入り。即座に馬の絵札を取りました。

地方の学会に参加するときは、いつも本屋さんで地元のカルタを物色する私でした。